

## (15) 放射線診断科（井田病院）（選択科目）

◎ 研修カリキュラム責任者：山下 三代子 放射線診断科部長

### A. 研修目標

#### 1. 一般目標

放射線を用いる診断や治療にあたり、適応を判断し、放射線被ばくや造影剤使用の危険性とその予防を行える。CT検査及びMRI検査の原理を理解し、検査の適応と読影を修得する。

#### 2. 行動目標

- 1) 患者の病状を理解し、診断のために最も適切な検査方法を判断することができる。
- 2) 検査に際して、放射線被ばくや造影剤の副作用にも注意をはらうことができる。
- 3) 検査の目的とリスクについて患者に説明することができる。
- 4) CT検査及びMRI検査の基本的な読影を行える。
- 5) 放射線による検査の読影レポートを作成することができる。
- 6) 頻度の高い主な疾患についての画像所見を学ぶ。

#### 3. 経験目標

1. 単純X線写真（胸部、腹部、骨外傷例）の読影ができる。
2. 経静脈性胆道造影検査及び読影ができる。
3. 経静脈性尿路造影検査及び読影ができる。
4. 消化管造影検査及び読影ができる。
5. CT、MRI検査の読影の基礎を理解する。
6. 核医学検査の適応と方法を理解する。
7. IVRを含む血管造影の適応と手技を理解する。
8. 放射線治療の適応、副作用等の概要を理解する。
9. 画像診断レポートを自ら作成する。

### B. 研修計画

研修は4週以上とする。

1. CPCやキャンサーボードなどのカンファレンスに参加する。
2. 指導医とともにCT・MRI・RI検査の読影レポートを作成し、フィードバックを受ける。
3. 希望があれば、月曜日午前中に指導医と共にIVRに参加し、適応と手技を学ぶ。

### C. 指導体制

山下 三代子 放射線診断科部長      日本医学放射線学会放射線診断専門医

#### D. 評価

- 1) 研修医は、経験目標に従って、自己の研修内容を研修医手帳に記録し、指導医に提出しフィードバックを受ける。
- 2) 研修終了時に、当院研修医評価票に基づいて評価を行う。

#### E. その他

放射線科以外の基本領域を専攻する場合には、各診療科に必要な画像を重点的に読影するようにしている。具体的には、経時的な変化が認められる症例について一緒に読影し、場合によりレクチャーしている。

放射線科ローテーション中は内科 ER 当直に従事するため、研修医が初療した症例についてもフィードバックし理解を深めるように努めている。